PICK UP_　鬼北町防災訓練

自助・共助・公助で未来へつなぐ命

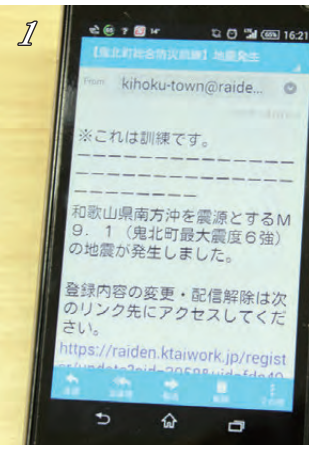
Photo_近永栄町の避難訓練の様子

和歌山県南方沖を震源とする「M9．1の地震を想定」

12月2日、町内全域を対象とした「鬼北町防災訓練」が行われました。この日は、今後発生する可能性が高いと言われている「南海トラフ巨大地震」を想定して行われました。

午前8時、防災行政無線から鳴り響くのは、大地震発生を知らせるサイレン。「ただいま町内全域に対して、地震に関する避難勧告を発令しました。先ほど発生した激しい地震により、町内では家屋の倒壊や火災の延焼など、危険な状態になっています。速やかに指定の避難場所まで避難してください」。

全町民に避難を促すこの放送が流れ、町民の皆さんは近くの一時避難場所へと避難。避難が完了すると、避難場所に来ていない人に対する安否確認訓練や、被災情報を各公民館に連絡する情報伝達訓練を実施しました。その後、炊き出し訓練、備蓄品の確認やリヤカーの組み立て練習など、各地区独自の訓練が行われ、自主防災組織力を向上させていました。



また、災害対策本部では、電気や水道などのライフラインの寸断、崖崩れによる孤立地区の発生や、建物等の倒壊による負傷者の発生など、実際に起こり得る事態を想定し、それに対応するための対策を講じるさまざまな訓練となりました。

そして、北宇和病院では、北宇和病院職員と役場職員が連携し、手当の緊急度に従って優先順位を付けるトリアージ訓練を実施。実際に負傷者役を救護所まで運ぶ一連の流れを実践し、その難しさを改めて実感しているようでした。

また、中央公民館では、鬼北町消防団女性消防隊が炊き出し訓練を実施。お米と水を入れて縛ったナイロン袋を30分程度煮る方法で炊き出しを行っていました。さらに、同公民館の3階では、新聞紙等を使った避難所便利グッズ作成講習会を実施。参加した職員は「身近な物でも上手く活用すればいざという時に使えると知って勉強になった」と、被災への関心を深めているようでした。

いつ起こるか分からない災害。被害を最小限に抑えるために、今一度災害に対する意識を見直しましょう。